

物価高騰対策重点支援
地方創生臨時交付金

生活が厳しいすべての

市民に行き届く支援を

2月17日に神戸市会本会議がひらかれ、日本共産党神戸市会議員団の森本真議員が登壇し議案質疑をおこないました。

質疑項目

- 1. 神戸市の物価高対策について
2. 部活動の地域展開に伴う条例及び基金の設置について

森本議員は昨年12月の臨時市議会で、国から神戸市へ分配された「重点支援地方交付金」約110億円について、物価高騰で困っている市民業者にいち早く届くようにと質疑しました。

おこなわれました。そんな中、2月10日の市長会見で明らかになった神戸市の交付金の使途の全容は、食料品・生活用品の無料配布会「フードサポートこうべ」の全区開催やフードシェアリングサービスの利用促進など、物価高騰で苦しんでいる市民に行き届く施策ではありません。

森本真議員が議案質疑



「誰でも行ける」と言うが、昨年は3時間並んだのにもらえなかった人がいた。そのようなことにならないように取り組むのか。

今西副市長：予算を大幅に拡充し、3万人を対象にして

過去最大規模で実施する。

森本議員：これで物価高騰の影響が大きいすべての人が救われるのかを考えるべきだ。

久元市長：これは逆に県でも国でもできない施策だ。この施策だけで生活が厳しい方々のニーズを拾いあげられるものではないが、複合的な対(次ページへ続く)

答弁ダイジェスト

久元市長：「物価高騰の影響」「時間的効果」「公益性、社会的有用性」の3つの観点から予算を編成した。消費者への直接的な支援よりも食支援をおこなう既存のNPO団体などへの支援をおこなうことで、迅速に食料品を提供し、食品ロスの解消にもつなげることができる。

森本議員：市長は会見で「物価高騰の影響は低所得者、厳しい環境におかれている方への影響が非常に大きい」「影響を受けている方々の実態は、国や県よりも基礎

自治体である神戸市がよくわかっている」と言っていた。今回の施策でこのような方々すべてに恩恵があるのか。

今西副市長：国・県の施策でカバーできないところに焦点を当てた施策だ。重層的な支援でカバーできる。我々はいろんなチャンネルを通じて市民の状況を把握している。国県と同じような重複する施策をおこなうのではなく、その中でより必要な施策を見極めている。

森本議員：それなら商品券とは違うメニューを考えればよいのではないのか。

今西副市長：生活にお困りの市民であれば誰でも参加ができるような「フードサポー

〈物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金(約110億円)の活用事業〉

Table with 2 columns: Budget Item and Amount. Rows include: 令和7年度12月補正予算 (23億4,500万円), 学校給食における保護者負担の軽減, 社会福祉施設への運営支援, 令和7年度2月補正予算 (33億2,400万円), 市民への支援 (24億600万円), 市内事業者への支援 (9億1,800万円), 令和8年度当初予算 (53億5,900万円), 市民への支援 (3億2,100万円), 市内事業者への支援 (50億3,800万円).

策として効果が発揮できるようにしたい。

森本議員：フードバンクは困っている人が直接足を運ばなければいけない。行けない人に自己責任を押し付けてい

るように思う。フードバンクはほぼ慈善事業に近い取り組みで自治体がすべき仕事ではない。予算が足りないなら市独自の予算をつくるべきだ。

久元市長：困っている方全

てを政府が責任をもって対応するのは共産主義社会の発想だ。社会貢献をおこなう企業や団体と行政が連携することが今生きている日本の社会の常識だ。

森本議員：困っている人に「来てください」と求めるのではなく、あたたかい手を差し伸べることが住民福祉の増進をはかる神戸市の役割だ。

KOBE◆KATSU (コベカツ)

子どもたちが安心して活動できるように毎年度の予算編成を

神戸市では、今年8月末に中学校の部活動を廃止し、9月から地域のスポーツ団体を運営主体とするクラブ活動「コベカツ」に移行することになっています。神戸市は「コベカツ支援基金」をつくり、20年分の所要額として10億円を積み立てる補正予算案を提出しました。コベカツ基金は、クラブ・団体の用具購入補助やAED・照明設備、楽器の更新・メンテナンスなど、活動環境の整備に使う予定として

います。今回の質疑で久元市長は、コベカツへの完全移行を短期間の見切り発車で拙速に進めてきたことで混乱を招き、議会や保護者から不安や懸念の声が上がったことは事実だと認め、コベカツ基金の創設はこれらの声に応えるためと答弁しました。森本議員は、予算単年度主義の観点からも毎年度必要額を予算計上し、すべて公的負担で生徒や保護者が安心して活動できるようにすべきと求めました。

答弁ダイジェスト

福本教育長：コベカツ支援基金は、主に活動環境の整備に関して安定的に継続して対

応するためのものだ。生徒や保護者、クラブ関係者の安心にもつながる。

森本議員：今回の予算で

は、基金とは別に5億円をコベカツに計上している。セキュリティや活動環境の整備のための公費負担であれば、基金を使わなくても単年度で予算を組めばいいのではないかと

福本教育長：大きなお金を一定基金として示すことで各クラブの指導者や保護者が安心して対応してもらえる。教育委員会としては非常にありがたいことだ。

森本議員：コベカツ支援基金を創設する条例の第8条では、財政上の措置として「市長はコベカツの総合的な推進に関する施策を実施するために必要な財政上の措置を講じるよう努めるようにするものとする」と、市長の役割が書いてあるが、基金を積まないと財政上の必要な措置を講じられないのか。

久元市長：そんなことはないが、基金をつくる理由は、

議会の中で様々な不安が表明されてきたことは事実で、婦人会の皆さんからも不安の声を聞いてきたからだ。

森本議員：今までも一般会計を使って活動環境の整備をおこなってきたではないか。基金を積まなくてもコベカツは成り立つ。

久元市長：基金が絶対的に必要かどうかは政策判断だ。必要となる経費は毎年度予算編成の中で提案する。しかし、コベカツは全国的に非常に進んだ取り組みで、それに伴う不安に応え、期限が来たら一斉に移行する体制をつくる上で不可欠だ。

森本議員：10億を20年間毎年切り崩していくよりも、活動環境を整備することも含めて必要に応じて予算繰りすれば何ら問題ない。なぜ先取りして基金を積むのか理解できない。

「自助努力」「民間丸投げ」ではなく、公共の役割を発揮し市民の暮らしを守る予算に

2月24日に神戸市会本会議がひらかれ、朝倉えつ子議員が議案反対討論に登壇しました。

神戸市が発表した「第6次神戸市基本計画」では、第5次にあった「安心な暮らしを守る」という文言はなく、都心・三宮や神戸空港などの大

型開発は工事費が高騰しようが見直しもせず推進する一方で、市民の暮らしは「自助努力」に任せる計画です。さらに、久元市長は「物価高で困

っている方を全て政府が責任をもち対応するものではない」と公共の役割を投げ捨て、民間に丸投げしています。朝倉議員は、住民福祉を向上させる地方自治体の役割を発揮し、暮らしを守る予算に転換すべきと求めました。



朝倉えつ子議員が議案反対討論

ぜひ傍聴にお越しください

味口としゆき議員が総括質疑

3月12日(木) 13時40分頃から 市議会本会議場にて

※委員会の進行状況によって時間が大きく前後する可能性がありますのでご注意ください。

インターネットのご視聴はこちらから



市議会だより
387号の
訂正とお詫び

市議会だより387号の裏面下部、「特別委員会の担当議員と質問日時」の表見出しと総括質疑の担当議員に誤りがありましたので、ここに訂正しお詫びいたします。

[誤] 26年度2月議会・決算特別委員会
日程と共産党議員の質問予定



[正] 26年度2月議会・予算特別委員会
日程と共産党議員の質問予定

[誤] 総括質疑 3月12日(木) 前田あきら



[正] 総括質疑 3月12日(木) 味口としゆき